

M i z

平野伸一 執行役員 研究開発担当

Miz (本社神奈川県、佐藤文武社長、0467-5317511) は、製造・販売は行わず、水素関連の研究開発のみを手掛けるユニークな企業だ。同社の業務内容や、水素市場の展望などについて執行役員研究開発担当の平野伸一氏に話を聞いた。

——まずは御社の業務内容について聞きたい。

当社は、水素関連の研究開発だけに特化した会社だ。水素に関連した特許の数は国内外あわせて約130に及ぶ。当社としては、販売会社から特



安心で安全な商品を提供していきたい

た。溶存水素濃度7ppmの水素水を生成できる「7ウォーター」と、10ppmの水素水を生成できる「百滴水素(旧名:10ウォーター)」はこの技術を商品化したものだ。水素ガス吸入技術については、水素ガス吸入機「MHG-2000」という家庭用の機器を開発した。昨年の9月から販

だ。前商品と比べて、吸入できる水素濃度を高め、もちろん安全面についても厳格にテストを行っており、問題ない。非破壊的水素含有技術は、医療機関向けの技術として、点滴液、腹膜透析液、臓器保存液などに活用されている。

溶存水素濃度判定試験には、試験が水素と還元チ「動脈硬化」などに効果があることを確認し論文発表を行っている。非破壊的水素含有技術を用いたものに関しては、「脳梗塞」「腎不全に対する腹膜透析」「疼痛・発熱に伴う急性皮膚炎」などの効果について確認し、論文発表を行った。

水素を活用した点滴液については、獣医領域に考えている。水素にマイナスイオンを持たれて市場が縮小してしまうのではないかと心配している。水素に関する研究は、臨床試験データで約20報、動物試験については300報以上が発表されている。当社としては、「水素」に関する正しい知識を消費者に得てもらうために、情報発信を行っていききたい。

——今後の展望について聞きたい。

まず御社の業務内容について聞きたい。当社は、水素関連の研究開発だけに特化した会社だ。水素に関連した特許の数は国内外あわせて約130に及ぶ。当社としては、販売会社から特

許使用料を頂くという形で収益を得ている。当社では①水素水生成技術②水素ガス吸入技術③非破壊的水素含有技術④溶存水素濃度判定試験——の4つの分野において強みを持っている。

水素水生成技術については、ペットボトルの水を水素水化する技術を開発し

売代理店が販売を開始した。水素ガスは、空気中の濃度が一定の範囲にあると、火気によって爆発や爆発をひきおこす恐れがある。当社の機器ならば安全を保てる濃度の水素を吸入できる。また、あわせて水素ガス濃度を表示している。

今年5月には、「MHG-2000」のグレードアップ版を出す予定

反応を起し、溶液が無色透明になるという化学反応を利用して、溶存水素濃度を簡易的に測定できる点に特徴がある。

——御社が取得しているエビデンスについても聞きたい。

当社では、国内外の約30の大学と共同研究を行っている。水素水生成技術については、「パーキンソン病」「関節リウマ

国民生活センターが水素水に関する注意喚起を発表した件についてはどう受け止めているか。業界にとってはマイナスだったのではないかと

反応を起し、溶液が無色透明になるという化学反応を利用して、溶存水素濃度を簡易的に測定できる点に特徴がある。

——御社が取得しているエビデンスについても聞きたい。

当社では、国内外の約30の大学と共同研究を行っている。水素水生成技術については、「パーキンソン病」「関節リウマ

国民生活センターが水素水に関する注意喚起を発表した件についてはどう受け止めているか。業界にとってはマイナスだったのではないかと

より安心して安全な商品世の中に出していきたい。